

井戸端会議なハザードマップ 高知県土佐町x土佐まちケア

解決したい課題の要点

住民の防災活動が意識せずとも防災情報を蓄積できる住民が参加しやすい入口
土佐町の中にある厚いデータの既存資料のオープンデータ化と日頃の「井戸端会議」の中で「これはやばい」と「災害時にも使えるね」データを合わせて抜き出す仕組みを開発し、タイムリーに納得して行動できるデジタルマップとカレンダーを作成する。

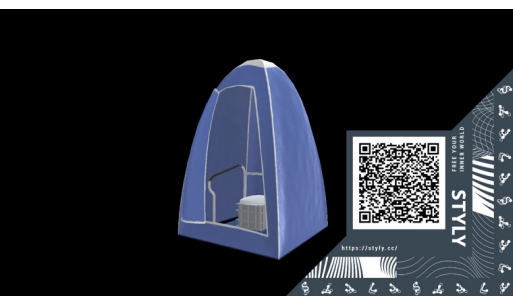


過去5年の町民アンケート、ワークショップ、住民ヒアリングなどを再分析し、第7次土佐町振興計画進捗評価指標を元に、地域住民と町（国）のなかから、①その土地の知識・災害の言い伝え、②地域のネットワークと人間関係、④コミュニケーションの課題、⑤時間の使い方、態度のような、生活者視点の要素に言い換えて項目を整理する。

生活者の視点から、データ保有者のデータマネジメント（情報取得⇒可視化⇒処理・分析⇒データ提供・公開）の方法とそれに必要なルールを整理する。地域の保健機関や医療施設、最初の対応者との間の最適なデータ管理の流れを、災害時のデータ管理のやり取りを効率化を念頭に入れて、地理空間的、時間的なあんしんな暮らしのデータカタログ作りを行う。



旅行者：街歩きスタンプラリー +（環境観察）



2. マッピングの場と人づくり

訓練は全員ではなくむしろいつでもだれでもスタンプラリーに。旅行者：街歩きスタンプラリーで確認してもらおう +（消火栓、あめがふったら大変そう、これをおいてたらあんしんだね。昔はこんなことがあったのか。をAR化）

既存コミュニティ：道の駅土佐さめうら付近のコミュニティのバーベキューをはじめたい人々の「井戸端会議」からはじめる
土佐のあかうし、季節の野菜BBQの観光など季節の行事と合わせる。

